

# ピクトグラム と サインのデザイン展

FINA 世界水泳選手権 2022 福岡大会に向けて



プロジェクト参加学生：正田 陸、久米聖伍、鈴木智敏、星野純平、金子千聖、川波花音、谷口由乃佳、松原芽生、木森理梨香、畑 裕梨、李 厚鍾、趙 懷邦、謝 敏、山田和佳、寺尾知華、菅野里菜、中村 綾、藤井野乃子、齋藤航大  
プロジェクト監修：伊原久裕、工藤真生、須長正治、尾方義人

主催：ピクトグラム研究会(九州大学大学院芸術工学研究院 伊原研究室+工藤研究室+尾方研究室+須長研究室)  
後援：九州大学芸術工学研究院 社会包摂デザイン・イニシアティブ  
お問合せ：福岡市南区塩原4-9-1 九州大学大学院芸術工学研究院 伊原研究室 092-553-4514  
●福岡市男女共同参画推進センター・アミカスにて関連展示会の開催を予定しています。  
2021年12月1日～12月6日 福岡県福岡市南区高宮3丁目3-1

2021年11月23日(火) → 11月28日(日)  
9:30-17:30 最終日は17時まで

福岡市美術館  
市民ギャラリーC



# ピクトグラムとサインのデザイン展

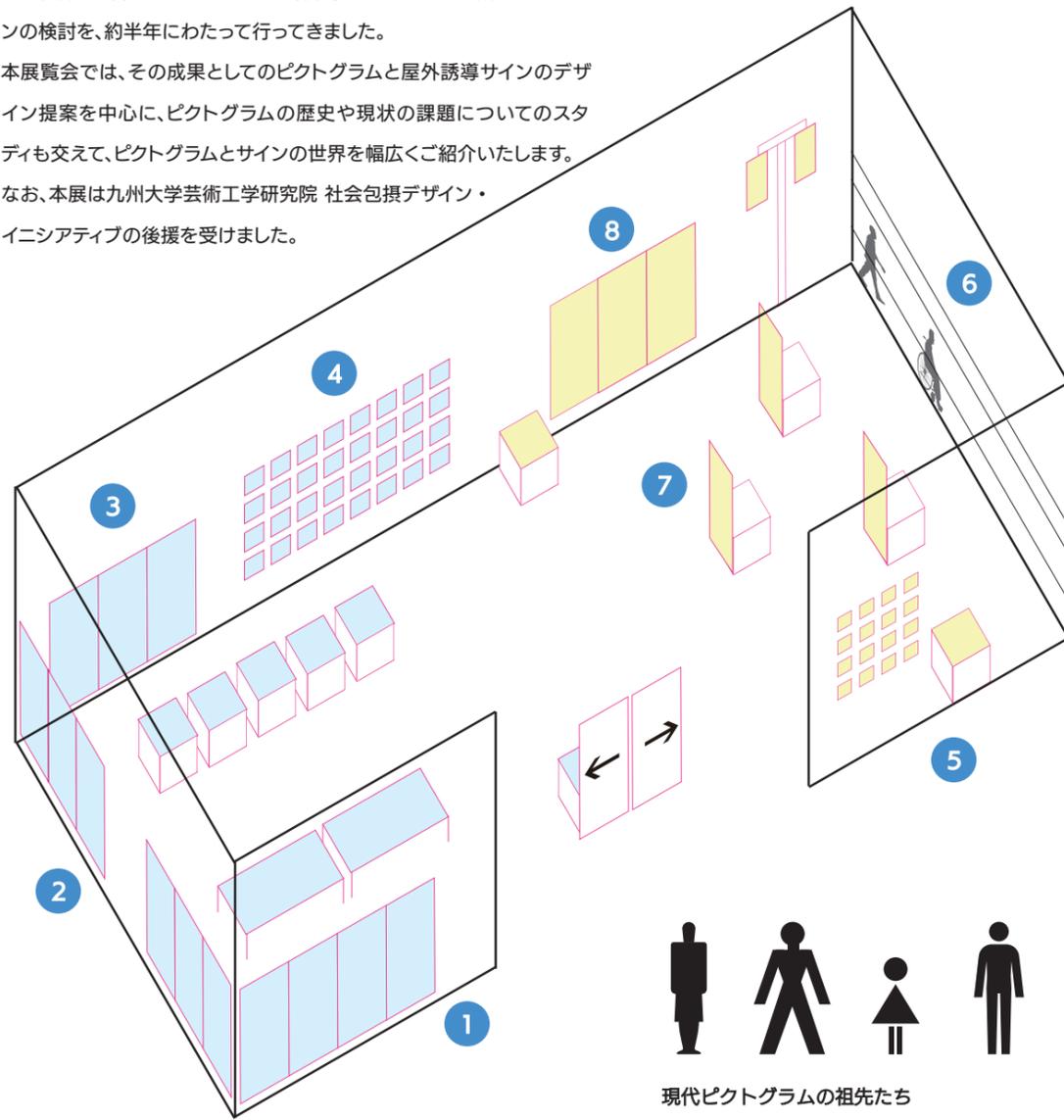
## FINA 世界水泳選手権 2022 福岡大会に向けて

九州大学大学院芸術工学研究院、大学院芸術工学府及び芸術工学部では、第19回FINA世界水泳選手権2022福岡大会及び第19回FINA世界マスターズ水泳選手権2022九州大会に向けて、大会組織委員会と覚書を交わし、ピクトグラム及び屋外誘導サインのためのデザイン事業を共同で実施しました。

プロジェクトの中心となったのは、芸術工学部および芸術工学府の学生たち総勢19名。ピクトグラムと屋外誘導サインのための調査とデザインの検討を、約半年にわたって行ってきました。

本展覧会では、その成果としてのピクトグラムと屋外誘導サインのデザイン提案を中心に、ピクトグラムの歴史や現状の課題についてのスタディも交えて、ピクトグラムとサインの世界を幅広くご紹介いたします。

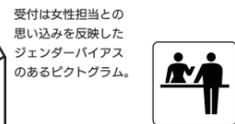
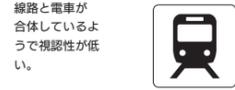
なお、本展は九州大学芸術工学研究院 社会包摂デザイン・イニシアティブの後援を受けました。



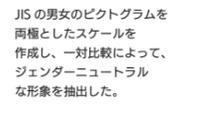
### 2 ピクトグラム | 課題の発見

ピクトグラムのデザインにあたり、知的障がい者や認知症者を対象としたピクトグラム理解に関する研究成果を参照しつつ、日常空間で出会う代表的な公共ピクトグラムの「JIS」規格のピクトグラムを中心に、改めて課題をさぐりました。

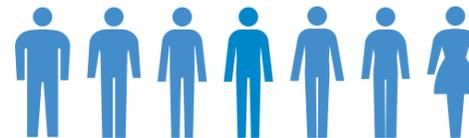
#### 課題発見



#### 試作



#### 理解度調査



### 4 30のピクトグラム

完成した30個のピクトグラムを展示しています(裏面参照)。

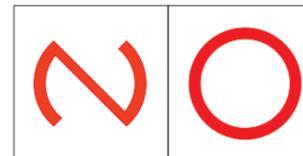
### 5 子供とピクト

オープンキャンパスで子供のピクトグラム教育を目的としたワークショップを実施しました。ワークショップで用いた冊子やお子様を描いたピクト絵を展示し、映像で実際の様子を紹介します。



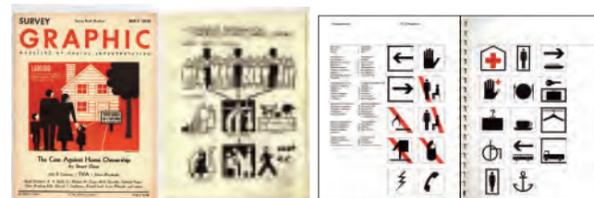
●ピクトグラムワークショップで子供が描いたピクトグラム。【左】スマホ、【右】バス停

●禁止標識が「N」「O」からできていることを示す図



### 1 20世紀ピクトグラムの歴史

ピクトグラムとは、図記号のなかで特に表現対象を分かりやすく描く具象的なシンボルのことを指します。ピクトグラムの歴史は象形文字の時代にまで遡ることも可能ですが、公共空間に浸透するのは、20世紀になってからです。このセクションでは、現代ピクトグラムの先駆をオーストリア、ウィーンで生まれた「アイソタイプ」と呼ばれるピクトグラムを使った統計グラフ体系に求め、以降の発展をトイレの男女の形象の変遷に見てゆきます。合わせて、1930年代以降のピクトグラムを扱った印刷物を展示します。



【左上】Survey Graphic Cover Design & Charts: Pictorial Statistics Inc. (Rudolf Modley) 1938  
 【右上】Expo 67 Standard Sign Manual Design: Paul Arthur, 1967  
 【左下】R. Davison, Social Security Cover Design & Charts: Isotype Institute, 1943  
 【右下】L. S. Florence, Only an Ocean between, Charts design: Isotype Institute, 1943



### 6 サイン | 現地調査

サインを制作するにあたり、天神と呉服町にどのようなサインがあるのか、調査を行いました。調査結果を壁面に展開することで、普段は意識していない周囲のサインと、人によって異なる視野への気づきを促します。



### 7 サイン | デザインの体感

屋外誘導サインとバナーのデザイン案を実寸大で展示します。グラフィックとして提案したモチーフは、博多祇園山笠の風物詩のひとつ「勢水(きおいみず)」に由来しています。環境に溶け込むことを意識したサインを体感して頂ければと思います。なおグラフィック案については、確定したものではありません。



### 8 サイン | 評価実験

ユニバーサルデザインと視認性の観点から、歩行者を誘導する歩行案内サインと「引き戻し」を表す矢印などを制作し、理解度調査を実施して検証を行いました。最後に調査結果に基づいて会場外の誘導サインのガイドラインマニュアルを提案しました。

